



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第26回例会(1月27日)  
平成29年2月3日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)  
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 駒木 進  
幹 事 海野 尚  
会 報 熊谷 隆司  
クラブ事務局 TEL(653)5682  
FAX(653)5622

ROTARY SERVING HUMANITY. '人類に奉仕するロータリー'…… ジョンF ジャーム

## 新入会員卓話



### 『防災・減災報道とNHKの役割』

NHK 盛岡放送局 局長  
田中 宏暁君

卓話の機会をいただきありがとうございます。これまで担当した仕事を踏まえ、「防災・減災報道とNHKの役割」についてお話をさせていただきます。

#### （「命と暮らしを守る」報道～東日本大震災の経験を踏まえて）

東日本大震災が発災した2011年3月11日午後2時46分。私は、東京渋谷の放送センターでニュース番組の制作をしていました。緊急地震速報を受信し、ニュースセンターに駆け付ける途中、激しい揺れを経験しました。スタジオのアナウンサー脇で、激しい揺れが続く中、報道にあたりました。ロボットカメラから送られてくる釜石港に巨大な津波が押し寄せる光景、ヘリコプターから送られてくる平野を津波が遡上する様子を、スタジオのモニターで見て、言葉を失いました。NHKは、テレビとラジオで避難の呼びかけを続けましたが、多くの方が犠牲になりました。もっとすべきことはなかったのか。もっとできることはなかったのか。自問を繰り返しました。この厳しい経験を教訓として、NHKは組織を挙げて「防災・減災報道の強化」に取り組んでいます。

現3か年経営計画の重点方針の最初に、「命と暮らしを守る」報道に全力を挙げ、東日本大震災からの復興を積極的に支援することを最重要事項として掲げました。本部と全国の放送局が一体となり、全力で防災・減災報道に取り組んでいます。

大震災直後から、深い反省を踏まえて「放送機能の強化」に取り組んできました。どのような状況でも放送を継続することと、正確・迅速に一人ひとりに届く防災・減災報道を強化することをめざしています。「ハード」と「ソフト」の強化の観点から、事業継続のための計画（BCP）に取り組みました。

ハードは、設備面での強化です。本部のバックアップ機能の強化、ロボットカメラの強化、停電への備え、中型ヘリコプターの配備などを進めてきました。

本部のバックアップ機能の強化についてですが、NHKの全国放送は、渋谷の放送センターから全国に送られて、岩手県では、盛岡放送局から、テレビとFMは、紫波町新山の基幹中継局、ラジオは矢巾町の基幹中継局から、県内各地の中継局を経て、ご家庭に届く仕組みです。首都直下地震などにより、万一放送センターが

機能を停止した場合に備えて、大阪放送局で緊急ニュースを取材・制作して、衛星放送を経由して、全国に放送するバックアップの仕組みを整備しています。

このほか、市街地や海岸の様子などを映すロボットカメラを増設し、太陽光や風力を用いた無停電ロボットカメラの整備も進めています。停電時にも放送局や中継局が自家発電機で放送を継続できるよう燃料タンクの増量工事も全国で行いました。IP等の新しい技術を取材や中継など放送に活用する取り組みも積極的に進めています。

もう一方のソフトの強化は、放送の中身を改善することや、いざという時にきちんと役割を果たせるようにするための取り組みです。

大震災直後から、まず取り組んだのが、津波警報等が出された場合の画面や呼びかけの改善です。切迫感のある呼びかけに変えました。昨年11月22日に福島と宮城に津波警報、岩手に津波注意報が出された時の放送画面でも、赤枠の中に「つなみ！にげて！」と大きく記しています。こどもや日本にいる外国人を意識して、ひらがなを使い危険をわかりやすく表現しています。全国放送のL字放送とは別に、いちばん外側に、「津波注意報（岩手）」とあるのは、岩手県域向けに盛岡放送局で上乘せして出している情報です。できるだけきめ細かく出していく方針です。昨年の台風10号の時にもこの方針で対応しました。

ソフトの強化としては、東日本大震災の時に情報を得るためのメディアとしてラジオがあらためて評価されたことから、ラジオやインターネットでの発信を強化することを進めてきました。3年前から、盛岡局では、平日午後5時から「まじえ5時」という番組を放送しています。お国言葉を大切にしたい岩手ならではの番組で、いざという時に「安心ラジオ」として聴いてい

ただけるように取り組んでいます。ぜひ一度お聴きいただけると幸いです。台風10号の時にも、被災された方々を支援するための放送を行いました。

このほかにも、災害にあわれた方が必要とされる生活支援情報、水や食料、入浴サービス等の情報をよりきめ細かく発信していくことなどを進めてきました。そして、本部や放送局がいざという時に機能するように、災害対策規程やハンドブックをあらためて整理し、大きな災害を想定して広域での動員や業務支援計画を立て、非常災害対策訓練を実施しています。

#### （台風10号対応と課題）

昨年夏の台風10号は統計史上初めて岩手県大船渡市付近に上陸しました。その時の盛岡放送局の対応としては、上陸前、前日から防災・減災のための警戒の呼びかけを行い、上陸当日は県域向けの警戒呼びかけを強化しました。一夜明けてヘリコプターの映像等で、久慈市や岩泉町などの大きな被害が明らかになり、災害の状況を報道しつつ、被災された方に必要な生活支援情報をL字放送やラジオ放送、インターネットなどで届けました。NHK職員は転勤によって勤務地が変わりますが、台風10号の際には、全国の盛岡局勤務経験者が駆けつけてくれました。いざという時に助けてくれる応援団が全国にいることは、NHKの特長であると思います。

私たちは、出来る限り、災害を防ぎ被害を少なくする防災・減災の呼びかけをしたつもりですが、岩泉のグループホームなどで犠牲者を出すことになってしまいました。岩泉のケース等を踏まえて、内閣府が避難に関する情報の名称の変更などを実施しました。「避難準備情報」は「避難準備・高齢者等避難開始」に改められました。NHKとしても、一人ひとりに自分の

ことと受け止めてもらえる伝え方をさらに工夫していきたいと考えています。

もうひとつ、電波確保、放送を届け続ける仕事について説明します。

台風10号によって、岩泉地域では広い範囲で停電が起きました。地区でもっとも基幹となる岩泉中継局も自家発電機で電波を出し続けることになりました。一日に60リットルの燃料を消費するため、補給が必要です。しかし、台風により出向路は寸断され、車も使えませんので、まったく新たな登山道を自力で開拓して、一人が10キロの燃料を背負い、片道2時間歩いて、燃料を補給しました。NHKと民放各社、NHKの関連団体や協力会社などが対応に当たりました。2週間にわたって続きました。

機能強化に地道に取り組むことの重要性和、放送法で期待されるあまねく電波を送り届ける使命の達成という重い責任を再認識しました。

以上が、NHKの防災・減災報道の取り組みの概要についてのご説明です。今後も、防災・減災報道に全力を挙げてまいります。

### (メディア環境の変化と受信料だからできること)

それでは、残りの時間、少しでも最近のメディア状況やNHKの新しい取り組みをご紹介します。

メディアをめぐる環境の変化として、「視聴環境・メディア利用の変化」「競合環境の変化」「社会環境等の変化」が指摘されています。

「視聴環境・メディア利用の変化」としては、相対的なテレビ離れがあります。若い世代を中心に、テレビを持たない世帯が増えています。一方で、スマートフォンの急速な生活への浸透が進んでいます。一昨年の「日本人とテレビ」の調査によれば、テレビ視聴者は約91%。このうちテレビとネットを両方利用している人は

約58%です。ネットのみの利用者は約5%という状況です。ネットへの対応が重要になります。「競合環境の変化」は、放送会社の競争相手の変化です。優れたコンテンツをめぐる競争の激化があります。通信事業者やプラットフォーム事業者などがコンテンツビジネスに積極的に参入する状況にあります。また、インターネットの世界では、個人の嗜好やニーズに合わせたキュレーションサービスの普及などがあります。「社会環境等の変化」としては、世帯数の減少や人口減少があります。そして、急速な国際化を背景として、放送の国際化も進んでいて、各国で国際チャンネルの強化が行われています。

こうしたとても激しい変化に適切に対応していくことが、NHK、そして、さまざまなメディアに求められています。NHKは、これからも受信料制度の上で、「情報の社会的基盤」の役割を果たしていきたいと考えています。そのためには、放送を太い幹としつつ、インターネットも積極的に活用して、多様な伝送路で公共性の高い情報や番組等を届ける、「公共メディアへの進化」が必要であるというのが、いまのNHKの経営ビジョンや3か年経営計画の考え方です。ご理解を得ながら進めていく必要があります。

### (スーパーハイビジョン)

新たな取り組みをご紹介します。

まず、スーパーハイビジョンです。8KはNHKが中心となって開発した最新の放送システムです。通常のテレビの16倍のきめ細かさの高精細な映像と22.2マルチチャンネルの高い臨場感の音声が特徴の次世代のテレビです。リオ五輪の際には、JR盛岡駅南口改札スペースで開会式や柔道競技をご覧いただく受信公開をさせていただきました。ご家庭用の受像機は

開発中で、現在岩手県内にある受像機は盛岡放送局にある 85 インチ 1 台のみです。ぜひ一度、盛岡放送局にお越しいただき、圧倒的な臨場感を体感していただければと思います。原則、平日の午前 10 時から午後 5 時まで、どなたでもご覧いただけます。スーパーハイビジョンは、2018 年から実用放送を行う予定になっていて、2020 年の東京五輪の際には、ご家庭で楽しんでいただけるようにということを念頭に、取り組みを進めています。放送のほかにも、医療、美術、広告等への応用が進められています。受信料だからこそできる先導的な役割と考えています。

(インターネットの活用)

もう一つインターネットの活用があります。放送と通信の融合という状況を受けて、放送を補完するものとして、放送番組等を広く国民に還元する等の目的達成のために、NHK には、

インターネットを通じてコンテンツを届けることが認められています。ラジオ放送のインターネット配信「らじる☆らじる」はアプリをダウンロードしていただければ、スマートフォンでよりクリアな音声でお聴きいただくことができます。

テレビ番組についても、熊本地震のような災害時など、国民生活に大きな影響を及ぼす迅速に提供すべき緊急ニュースは、同時提供が認められています。そして、一定の時間帯の放送番組を一定の期間試験的に提供して課題を検証する「試験的提供」の実験も行っています。スマートフォン向けの「ニュース・防災アプリ」の取り組みも進めています。ぜひご利用ください。

NHK の防災・減災報道とメディア環境の変化を踏まえた取り組みをご紹介します。こうした取り組みができるのも、受信料によってみなさまに支えていただいているからこそです。これからもなにとぞよろしくお願い致します。

例 会 報 告

第 26 回例会  
平成 29 年 1 月 27 日(金)

- 12時30分 開会点鐘
- ・司 会 駒木 進会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・1月の歌 斉唱(雪の降る街を)
- ・ビジター 南部利文さん(会友)
- ・会長報告 駒木 進会長
- ・入会祝 工藤博司君。

- ・誕生祝 工藤博司君。
- ・幹事報告 海野 尚幹事

【ニコニコ BOX】

◆荒川鉄平君…本日の夕方から某料亭において、岡村弥会員が代表を務めている某金融機関の若手経営者の集まりの新春落語会があります。そこに出演する落語家の春風亭一之輔師匠を、1週間ほど前からNHKの「プロフェッショナル」という番組のスタッフが追跡取材

をしていて、我々の落語会や宴会の様子まで撮影させて欲しいとのことでした。編集があるので50分の番組でどれくらい映るかはわかりませんが楽しみにしております。今日は卓話がNHKの田中宏暁会員ということで、この偶然にニコニコします。

- メークアップ  
盛岡北R.C.=星・勝部君。盛岡西R.C.=岡本君。クラブ委員会=飯塚・三田君。

出席報告 会員数 /75 名 出席数 /47 名 出席率 /65.28% 前々回修正出席率 /70.42%

プログラムの  
お知らせ

- ・2月 3日(金) 会員卓話 長野隆行会員  
「英国に暮らして」
- 10日(金) 第3回クラブアッセンブリー
- 18日(土) インターシティーミーティング(17日例会変更)
- 24日(金) 創立記念例会

- 本号編集担当 / 熊谷 隆司
- 次号編集担当 / 阿部 広